

令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (2) グローバル化に対応した人材育成に関する事業
(6) その他、大学の活性化に貢献する取り組み

申請組織 学務部学生課

申請組織長 役職名 学務部長 氏名 藤田 修

統括責任者 役職名 学生課長 氏名 平野 貴之

課 題 名

	役割	氏 名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	平野 貴之	学生課長	統括
		石橋 法久	教務課長	留学生向け手引教務部門統括
		鬼頭 希世彦	キャリア支援課長	留学生向け手引就職部門統括
		新田 昌子	国際交流センター事務室長	留学生向け手引国際部門統括
		河田 梨佳子	学生課職員	学生寮の整備担当

1. 事業開始の背景・経緯や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

2026 年度入試から、私費留学生の受け入れ拡大方針が出され、複数の学部において私費留学生の入学が想定される。私費留学生は、一学部生であるため、あくまでも修学上のフォローアップは受入学部で行うことが前提ではあるが、学生生活や履修、就職など、事務組織としてもバックアップ体制を整える必要がある。具体的には、留学生向けの手引（学生生活、履修、就職、その他申請手続き等に関する事項等についてまとめた冊子）の作成、学生寮の受け入れ態勢の強化（換気扇取換、台所塗装、クロス貼替、エアコン洗浄など）を年内に行い、入学前に必要な準備を整える。

2. 事業方法（特色・独創性）等 (300 字程度で記述)

留学生向け手引は、現在の履修の手引と Student Handbook の中から、特に留学生にとって理解が難しい内容をピックアップするとともに、出入国管理局関係の手続きや、病気・緊急・災害時等の対応など、留学生にとっても教職員にとっても、安心して大学生活を送ることができるような内容とすることで、各学部、課室においても初期対応が可能となる。留学生の受入が多く、対応実績が豊富な他大学の事例を参考にしながら、本学独自の手引を作成し、入学後のオリエンテーションなどで活用する。学生寮については、修繕費用不足のため、空室にも関わらず入居可能となっていない部屋が多くあるため、私費留学生の受け入れ拡大に伴い、入寮希望者が多くなった場合に対応できるように整備する。

3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

申請の中で、学生寮の整備については採択されなかったため、本事業においては、留学生の手引の作成のみを行った。

毎年新入生に対しては、新入生オリエンテーションにおいて、履修の手引、Student Handbookなどを配布し、関係の各部署が、限られた時間の中で説明を行っているが、説明内容や資料が膨大であるため、留学生のみならず、日本人学生でもなかなか重要なポイントを理解することが困難である。また、留学生については、前述の新入生オリエンテーションでの説明内容以外にも、出入国管理局手続や、学生生活などにおいて、様々な手続や対応が必要となる。本手引は、在籍管理や学生生活、教務関係、就職関係などの中において、特に重要と思われる項目を厳選のうえ、フリガナをつけて一冊の冊子としてまとめたものである。4月以降、本手引を用いてオリエンテーションを実施し、さらに理解を深めるようにサポートしていくためのツールである。本事業において、初年度の印刷にかかる費用を採択していただいたことで、ある程度体裁を整えた手引の作成ができたことは成果と考えられるが、実際に手引を用いて説明などを行っていく中で、さらなる改善が必要となると想定されるため、現時点ではまだ成果は出ていない。次年度以降は今回作成したデータを修正・更新していくことで、より充実した手引となるように改善をしていき、何か学生生活で疑問が生じた際に、まず最初に確認を行うツールとして定着するように、活用方法についても検討していく。

4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①留学生	②サポート	③学生生活	④履修
⑤就職	⑥	⑦	⑧

5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。)

今回の手引は初版であり、実際には入学生に対して配付し、説明を行っていく中で、必要に応じて随時修正を加え、より充実した内容にブラッシュアップしていく予定である。活用前であるため、達成状況については不明であり、課題も明確にはなっていないが、懸案事項としては、私費留学生の中でも、漢字圏、非漢字圏といった違いや、入学前の日本語能力により手引の理解度の個人差が大きいのではないかという点である。手引のブラッシュアップで対応できる範囲であれば次年度以降対応していくが、難しいようであれば支援体制や方法を見直す必要がある。